



## 町内の防犯灯について

防犯灯は、夜間における犯罪や事故の未然防止に効果があることから、吉藤町内会では、安心安全で明るい街を目指して防犯灯の設置やLED化を進めています。

過去の町内会調査によると、町内には防犯灯が234灯あり、そのうち蛍光灯防犯灯が151灯(約65%)、LED防犯灯が83灯(約35%)となっています。

近所の防犯灯が消えていたり、近くに防犯灯がないため暗くて危険な場所があるようなときには、次のとおり対応をお願いします。

- ① 近所の防犯灯の管球切れに気付いたときは、地区担当の組長さんに連絡してください。組長さんは、点灯状況や電柱番号等を確認の上、電話又はFAXで松山電気工事協同組合に管球取替工事を申し込んでください。(全額市の助成で交換してもらえます。)
- ② 防犯灯を新設したい場合や蛍光灯防犯灯が故障してLED防犯灯に付け替える必要

がある場合は、町内会から市(防犯協会)に申請しますので、組長さん、地区長さん経由で町内会担当役員までご相談ください。



町内会HP

なお、上記に関しては、組長さん、地区長さんの引継書類「業務の手引」の「組長の任務」に記載しており、町内会ホームページにも掲載していますので、ご参照ください。(防犯灯に関する市の助成制度については、市のホームページに詳しく掲載されています。)



<蛍光灯防犯灯>



<LED防犯灯>

### 【お知らせ】

○三島神社の夏祭りは8月6日(日)に開催予定です。(※従来の8月1日開催から日程が変更となっています。)

## 近隣を歩く (伊能忠敬休息の地)

吉藤の周辺にも、歴史的な“いわれ”のある場所があります。

寛政12年(1800年)から文化13年(1816年)まで17年をかけて日本全国を測量し、『大日本沿海輿地(よち)全図』を完成させ、国土の正確な姿を明らかにした伊能忠敬(いのうただたか)が、谷村、平田村の測量の途中に休息をとったとされる史跡に行ってみました。

その史跡は、吉藤4丁目の北に接する谷町の蓮華寺山門から東に100mほどのところにあり、常夜燈、石碑と案内板が設置され、石碑には、次のように刻字されています。



『伊能忠敬が幕府の命を受け全国地図を作る

ため、四国や淡路の全海岸の街道を測量しながら松山城下から北条に向かう途中、此の地谷村に立ち寄ったのは、1808(文化5)年8月16日、忠敬64歳のときであった。

忠敬は(1745~1818)千葉県佐原の人。18歳で伊能家の養子となる。天明の飢饉の救済などに手腕を発揮。又暦学、天文学、測量術を基礎にした最初の科学的な日本地図の作成者である。』

なお、伊能忠敬が、松山城下から谷町に向かったということは、その途中に吉藤も通ったものと思われる。

散歩コースの参考にされてはいかがでしょうか。

